基本基金の取り崩しについて

～2020スポーツ・ラボの4面クリアコート自主開催を目指して～

2024年のパリ五輪開催が決定した今、フランスの世界スカッシュ連盟会長・ジャック・フロンテイン氏も、世界トップランカーを有するフランスでのスカッシュの五輪入りに大変な自信を持っており、2024年のオリンピックの最有力候補としてスカッシュは注目されています。
東京であと一歩の涙をのんだスカッシュに足りなかった事のひとつに日本に四面クリアコートがなくて、スカッシュの迫力や醍醐味を充分にアピールする事が出来なかった点にあります。

そこで、（公社）日本スカッシュ協会では理事会で承認、総会で報告されたように、四面クリアコートを購入し、国際及び国内大会の開催や2020年スポーツ・ラボの自主開催を目指す事となりました。加えて世界で活躍しオリンピックでの入賞を目指す選手達にとって必要不可欠な四面クリアコートでの練習トレーニングにも充てられるように常設での設置も目指します。

今回の購入が実現しましたのは、大連スカッシュ協会の絶大なるご支援により、海外から借りて数回輸送するより安価で、手の届く金額での購入が可能になったからです。郵送費や輸入関連費用、試し設置等の費用を見込んでも約1千万円で実現できる見込みです。

今後の国際大会や国内大会の実施に加えて、2020年のスポーツ・ラボの自主開催を目指した場合、一例として六本木の東京ミッドタウン内（キャノピー）の場合、会場費（1日100万円/建込・撤去半額/建込み3日、開催3日、撤去2日として）550万円、4面クリアコート及び観客席設置費用250万円、大型モニター等を含む広告費（2週間として）200万円で大会の人件費等を除いても約1千万円の費用が必要になってきます。

そこで、（公社）日本スカッシュ協会の定款にある基本財産の一部を公益目的事業運転資金として取り崩しを提案致します。

日本のスカッシュ飛躍のチャンスに向けて、皆様のご理解ご協力を頂きますようにお願い申し上げます。

東京ミッドタウン（六本木）キャノピー　大型スクリーン